

3 第1回研修会講演記録

社会教育行政担当者として実践したこと、学んだこと

三井住友信託銀行鹿児島支店
財務相談課 参与 寺園 裕之

1 ウェルビーイングの捉え方

個人また、個人を取り巻く人たちが持続的に「よい状態」であること。「よい状態」とは、自分や自分がかかわる周りの人たち全員が充実感・満足感・幸福感を感じる状態のこと。



【講演の様子】

2 自分が「よい状態」で仕事を進めるために

(1) 実践したこと

- ア 分からないことは、すぐに聞くようにした。上司への報告・連絡・相談の際は、「自分はこうしたいのだが、よろしいですか。」と、自分の考えをもって話すようにした。
- イ 課題や解決策の記録や行程表を作成し、次年度の計画に生かした。
- ウ 上司や先輩の動きや仕事の進め方を参考にした。
- エ 仕事にメリハリをつける（休みを取る）ようにした。当時、なかなか休みを取らない自分に、上司から、「あなたの仕事の代わりにする人はいるけれど、父親や夫や子育ての代わりにする人はいない。」と声をかけられ、意識が高まった。
- オ 情報交換できる仲間をつくった。（役場や市役所職員、他市町村の派遣仲間）
- カ 行事や活動の課題等を常に意識しておいた。
- キ 可能な限り直接話を聞いた。各社会教育団体、公民館長、PTA会長等、名前と顔を覚えてもらって、相談しやすい環境を作ることができた。

(2) 学んだこと

- ア 同じミスを繰り返さない。
- イ 苦情を聞いて、次に生かす。
- ウ 初めての仕事を引き受ける、やってみる。

試行錯誤しながら、様々な経験ができ、達成感を味わえる。自分が始めた事業等が継続されると自信をもつことができる。

3 自分の周りの人たち全員を「よい状態」にするために

「仕事は厳しく、人間関係は温かく」を心がけてきた。

- (1) 「相手目線を踏まえた仕事」を心がける。相手目線とは、相手の立場を理解することである。好き嫌いは横に置いて、第三者目線で考え、否定的な考え方を捨て、相手に関する客観的情報をもとに考えるように心がけることが大切である。

(2) 実践したこと

- 相手への伝え方を考えた。
- 仕事の進め方は、具体的に分かりやすく簡潔に話した。
- 職員の仕事以外のことに関心をもつようにした。
- 職員を育てることを意識した。
- 上司の立場で見させる、考えさせるようにした。

(3) 学んだこと

- 具体的によさを褒める。
- 仕事には厳しく、確実なフォローをする。
- 「責任は上司がとる」ことを伝える。

「やりたい」ことを精一杯後押しし、アイデアを生かし膨らませるアドバイスをしたり、率先垂範で思いを伝えたりすることが大切である。

4 社会教育行政に携わる自分や周りの人たち全員が「よい状態」であるために

(1) 社会教育行政の主な背景

地域づくりや地域の文化・スポーツ、学校以外の学びの場すなわち社会教育の推進に大きな役割を果たす存在として「社会教育主事」という専門職の存在があったが、平成18年度に鹿児島県における派遣社会教育主事制度が廃止された。

(2) 社会教育行政の課題

- 人とつながりの希薄化（学校・家庭・地域）
- 課題意識の低下（現状に地域や周りの人たちは満足しているか）
- 企画力、実践力の低下、後継者が育たない。

社会教育・ 生涯学習の 停滞期

(3) 青少年育成の取組

ア 意図的な体験活動の設定

事業を計画する際に、子供たちに必要な原体験や実体験を意図的に計画するようにした（飯ごうでお米を炊く体験、火を使う体験、包丁で切る体験、宿泊を伴う事業での整理整頓等）。また中高生を対象にした社会体験や交流体験（市町村の枠を超えたジュニアリーダー同士の交流等）を意図的に設定し、コミュニケーションの取り方や人に教える方法を学ぶ機会を設定した。

イ 関係機関との連携や施設の活用

事業の趣旨や必要性についての理解、事業への協力を得るために、子ども会育成会、学校、PTA、コミュニティ協議会等に積極的に働きかけた。また、社会教育施設の定期的な利用で連携を図った。協力者や指導者の確保を得るために、地域のネットワークの活用や退職校長会等へ働きかけた。行政職として、縦（国、県、市町村、校区、町内会等）・横（市役所、役場内の他の課との事業イベントの内容収集、協力できる内容など）・斜め（国や県などの他の部署の情報収集、人材派遣等）の連携が大切であると感じている。

(4) 家庭教育支援の取組

ア 家庭での役割分担の推進

家庭教育学級で、「家庭での役割分担（お手伝い）」を、必ず計画の中に入れてもらうようにした。また、研修会の中で取組を発表する場を設定した。開級式の際は、直接自分が参加して家庭での役割分担の必要性や意義について、説明させていただいた。

イ 読書活動の推進

家庭教育学級の委員長、学級主事合同研修会の中で、読み聞かせグループによる活動を取り入れた。また、学校や地域に、読み聞かせグループの活動や図書館イベント等の広報を積極的に行った。さらに、各学校の学習計画の中に、読み聞かせを位置付けて取り組んでもらうようにした。

ウ 親子の関係づくりの推進

家庭教育相談員の養成と活用の促進に取り組んだ。知ってもらうための資料作成と学校を中心に広報を行った。また、いつでも相談できるような体制づくりを行った。さらに、同じ課題をもつ保護者同士で情報共有できるような場を設けた。

5 終わりに

「社会教育行政マンよ！思いついたら、まず行動！そして学び続けること！」

社会教育行政の仕事に携わることができて大変良かった。行政の仕事の大変さや喜びを経験できただけでなく、様々な人々との交流ができた。関わった地域のよいところにたくさんふれることができた。皆様もそれぞれの職場で頑張っていたきたい。